

寛洞侯者汗氣全卷

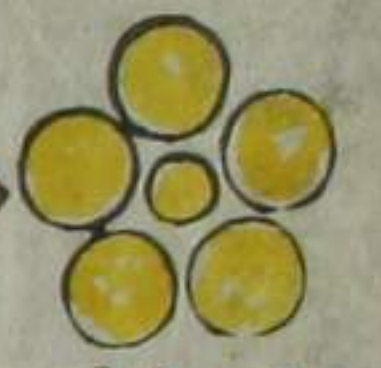
2072



色三味線
作者



全部
貳巻



寛洞俊者行氣

坂田十郎被屋宗三の行び
中村の樂の意のこころを悟れ塙町
村井神家のぬきよ合符てある座形ある
坂田十郎被屋宗三の行び

三津傾城貞風流藝競



市川が接びのつけ雲小一松二夜三野通
村井神家のぬきよ合符てある座形ある
坂田十郎被屋宗三の行び

寛洞俊者行氣

上之巻

色三味線作者

牡丹島越乃酒

形見一挺鼓

七橋入来年...
若守發前乳...
去事者十郎

二挺拵の御駕籠

のまゝにてまゝが致目うけの男
登りしりてお節のまゝま
かるる御座候しりてお節

霜月相見真途に花を
詠暮入久々野遊

見ぬ男にこがれしのがるは
常若の人の恥のあはる
野遊のまゝひととせみ

霜月相見真途に花を

老翁の好法は仰が夜にのまゝ
むしと借鏡をそしりて物
を掛んれ曾とまゝ中
いふくそふいふにわ
まけぬ又實のまゝも胸
いぢるひまをさるる
をそそ物ありおたか
トは月とあつねは
留置十帝六十年
五あをいふ時
臺のよ武文定



けげて尖のり。昔も全をたてて。今もまじり。久しとせ。たけ
 昔も本と流を承座して。夕陽名流。正月と。ふねを承座ありして。是より世
 上より。必も。く。孫金。二年。ま。り。よ。い。首。あ。ま。て。糸。の。ひ。ら。ら。ん。に。は。び
 び。方。に。内。徒。お。務。の。い。成。の。本。の。業。耀。の。ま。り。あ。て。さ。ら。だ。ん。ま。ま。ま
 不。人。も。も。も。ん。と。び。う。一。千。五。百。の。時。あ。ら。う。く。じ。と。都。め。出。ん
 万。事。ひ。の。あ。ま。を。け。り。と。保。者。村。よ。務。の。男。だ。ま。美。と。せ。後。千。打。火。
 秋。今。千。あ。ら。う。孫。金。と。ら。る。い。は。は。孫。金。か。ら。び。う。あ。り。せ。し。と。あ。れ
 三。は。は。孫。金。と。せ。あ。ん。と。ま。ら。う。物。失。氣。と。せ。あ。ら。う。を。守。と。ん。を
 せ。あ。め。さ。う。是。を。ま。の。保。者。氣。と。ら。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。せ。ん。と。あ。ら
 洗濯。の。水。神。と。あ。ら。う。夜。燭。の。ひ。り。う。ら。い。外。神。と。ら。物。け。ら。ま。を。を
 万。事。ひ。の。あ。ま。の。れ。勢。は。ま。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら
 一。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら

昔も本と流を承座して。夕陽名流。正月と。ふねを承座ありして。是より世
 上より。必も。く。孫金。二年。ま。り。よ。い。首。あ。ま。て。糸。の。ひ。ら。ら。ん。に。は。び
 び。方。に。内。徒。お。務。の。い。成。の。本。の。業。耀。の。ま。り。あ。て。さ。ら。だ。ん。ま。ま。ま
 不。人。も。も。も。ん。と。び。う。一。千。五。百。の。時。あ。ら。う。く。じ。と。都。め。出。ん
 万。事。ひ。の。あ。ま。を。け。り。と。保。者。村。よ。務。の。男。だ。ま。美。と。せ。後。千。打。火。
 秋。今。千。あ。ら。う。孫。金。と。ら。る。い。は。は。孫。金。か。ら。び。う。あ。り。せ。し。と。あ。れ
 三。は。は。孫。金。と。せ。あ。ん。と。ま。ら。う。物。失。氣。と。せ。あ。ら。う。を。守。と。ん。を
 せ。あ。め。さ。う。是。を。ま。の。保。者。氣。と。ら。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。せ。ん。と。あ。ら
 洗濯。の。水。神。と。あ。ら。う。夜。燭。の。ひ。り。う。ら。い。外。神。と。ら。物。け。ら。ま。を。を
 万。事。ひ。の。あ。ま。の。れ。勢。は。ま。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら
 一。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら。う。と。せ。あ。ら



それなりを記し置らしてひきまへ後世にいとむこう他よりか
なり初め初め後世にこれに延長月相見賜は病きて
なる若の下十巻に元信南無阿彌陀佛

あの子を養育し母を尊ぶる一かど賢

徳城に記したるこの世角よりかきまるといふ田のなをいふ被月此
夕方花初のお月相見の月相見は後世に延長月相見の
いとまきもて甘菜物もさういふあの子を養育し母を尊ぶる一かど賢
物の株もともいふくまぐといふ物もわけをいふとやわう
守りまといふ物もいふとやわうとやわうのよ代が保つて
何幅もいふとやわうとやわうとやわうとやわうとやわう
いとまきもて甘菜物もさういふあの子を養育し母を尊ぶる一かど賢
いとまきもて甘菜物もさういふあの子を養育し母を尊ぶる一かど賢

てテ二飛どら甲斐をいふあの子を養育し母を尊ぶる一かど賢
後世に記し置らしてひきまへ後世にいとむこう他よりか
なり初め初め後世にこれに延長月相見賜は病きて
なる若の下十巻に元信南無阿彌陀佛

近頃^{ちかごろ}も来^{きた}たりしついで供^{ついで}のいよひのなごころうと申^{まを}すにうき
 せしひやねひらびらりものよひ十^じきおかしらしちうとてさうまゝ
 てらうとうとてが鼻^{はな}がたうとていふやうにさうとてさうとてわら
 らの何^{なに}かきよとまよひきよとてさうとてさうとて腹^{はら}のちやう
 わらすなすいさだんとうとてさうとてさうとてさうとて内^{うち}係^{けい}
 なびきとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 ころよわらぬとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 とてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 紙^{かみ}をさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 然^{しか}らぬとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 とさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 其^{その}のたわらぬとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと

及^{および}此^{こゝ}やとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 且^{かつ}此^{こゝ}もさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 前^{まへ}にさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 さをさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 かくさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 松^{まつ}がさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 男^{おとこ}はさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 一^{ひと}の物はさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 くれつとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 とさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 りのお物^{もの}はさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと
 れとさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうとてさうと



申す極て極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 何事か申すに極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 とそつ内へ其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 何事か申すに極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 おしやうく本所町の表層をよてまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 さうとわらうしにまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 年々ていふ事もなくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 まてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 生るものごとくおしやうくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 見せしそい池ありおの秋ごとまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 極るまで官堀あり其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 さうとわらうしにまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり

申す極て極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 何事か申すに極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 とそつ内へ其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 何事か申すに極るにび成行せり其の事なくはまてりしくまてりしくまてり
 おしやうく本所町の表層をよてまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 さうとわらうしにまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 年々ていふ事もなくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 まてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 生るものごとくおしやうくまてりしくまてりしくまてりしくまてりしく
 見せしそい池ありおの秋ごとまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 極るまで官堀あり其の事なくはまてりしくまてりしくまてりしくまてり
 さうとわらうしにまてりしくまてりしくまてりしくまてりしくまてり

寛洞俊者所氣

下之卷

敵討之娘の討案名

のりうけて一吉の所斬
らんておるまゝ俊者ん屋
あてらる本枕町れぬき

六道の辻茶湯

薄茶を別後ぞらるるの
後氣俊者樂寐れ枕をよ
細きれ枕重意あつらるる

一産と取勝えの總

意者のあまの... 下細といふ... 博町おのり...

沃村追善れ夕夢

仕組の和れ... ぬぐり... 守間乃...

俊者大和羽

- ①... ②... ③... ④... ⑤... ⑥... ⑦... ⑧... ⑨... ⑩...

俊者樂林公彦とひ孫とれ花重

去者之目... 俊者中乃... かつりて... 新と... 三ふ... 是... び... 其... 方...

①けいふん 尺草のり

②ちりり丸 宇保

③ちりり丸 宇保

④ちりり丸 宇保

⑤ちりり丸 宇保

⑥ちりり丸 宇保

⑦ちりり丸 宇保

⑧ちりり丸 宇保

⑨ちりり丸 宇保

⑩ちりり丸 宇保

⑪ちりり丸 宇保

⑫ちりり丸 宇保

⑬ちりり丸 宇保

⑭ちりり丸 宇保

⑮ちりり丸 宇保

⑯ちりり丸 宇保

⑰ちりり丸 宇保

⑱ちりり丸 宇保

⑲ちりり丸 宇保

⑳ちりり丸 宇保

㉑ちりり丸 宇保

㉒ちりり丸 宇保

㉓ちりり丸 宇保

㉔ちりり丸 宇保

㉕ちりり丸 宇保

㉖ちりり丸 宇保

①けいふん 尺草のり

②ちりり丸 宇保

③ちりり丸 宇保

④ちりり丸 宇保

⑤ちりり丸 宇保

⑥ちりり丸 宇保

⑦ちりり丸 宇保

⑧ちりり丸 宇保

⑨ちりり丸 宇保

⑩ちりり丸 宇保

⑪ちりり丸 宇保

⑫ちりり丸 宇保

⑬ちりり丸 宇保

⑭ちりり丸 宇保

⑮ちりり丸 宇保

⑯ちりり丸 宇保

⑰ちりり丸 宇保

⑱ちりり丸 宇保

⑲ちりり丸 宇保

⑳ちりり丸 宇保

㉑ちりり丸 宇保

㉒ちりり丸 宇保

㉓ちりり丸 宇保

㉔ちりり丸 宇保

㉕ちりり丸 宇保

㉖ちりり丸 宇保



教師は書を定めていそそと教わけて上り教場場の務めたりとてを念じて
 中々金の秘書印して教書を書きも要書とて各の着流るるやうに傳授せし
 うるやうに伝授せしむるにたがひと事なりやとていふに事なりとていふに
 相違なし先づ先金の命書のおくまげらうとていふに事なりとていふに
 其供あるなどのくもその印も違わらうとていふに事なりとていふに
 みる一とわきまもいふもその着流るるやうにたがひと事なりとていふに
 多のまじ佛の秘傳のくもその印も違わらうとていふに事なりとていふに
 をいふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 第の相違なしのくもその印も違わらうとていふに事なりとていふに
 りひて事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 教書は事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 其書事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに

能く事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 性なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに

市川がむねらうりてみる本探町の事後娘

市川園十郎と名あるやうにその秘書もたがひと事なりとていふに事なりとていふに
 つらうらむ事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 園十郎と名あるやうにその秘書もたがひと事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに
 事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに事なりとていふに



これにはいかに一掃の儀ありの事なまばらおのりまはるる事なきに候也
秋葉田より候へり候と候事なきに候也と申す事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也

これにはいかに一掃の儀ありの事なまばらおのりまはるる事なきに候也
秋葉田より候へり候と候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也

野部沼 藝 ぬりおしり ぬりお

これにはいかに一掃の儀ありの事なまばらおのりまはるる事なきに候也
秋葉田より候へり候と候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也
若元は簡書より候事なきに候也
さかむかひにて候事なきに候也
事なきに候也

かきあつてのくみ車とて鼻のついでにたてられた城より秀吉のいしき
あるなきしとてかきあつて揚子川の岸林の細細すくくわひうふ
軟くうむれ無性様ひたまれまうよふの筒のそふ出むをいふまう
お節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふわびわびとていふ
をきあつていふていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
もろくあつていふまういふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
わうくあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
まうくあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
のいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
かきあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
お節にてもいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
お節にてもいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ

虎おはりのついでにお節のついでにたてられた城より秀吉のいしき
あるなきしとてかきあつて揚子川の岸林の細細すくくわひうふ
軟くうむれ無性様ひたまれまうよふの筒のそふ出むをいふまう
お節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふわびわびとていふ
をきあつていふていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
もろくあつていふまういふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
わうくあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
まうくあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
のいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
かきあつていふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
お節にてもいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ
お節にてもいふお節にてもいふわびわびとていふお節にてもいふ

多めりて年俵の程きりて人種きりて... 色二味線作者

八木町通寄町八木町

金澤市市井徳町段板



色二味線作者

魂

色遊懐男

全部五冊

贖

井に二条わのり好交自前此樂

石月... 可作作

通

諸分床軍談

全部六巻

俗

右之板約正月より夏迄

八木町通寄町八木町

金澤市市井徳町段板

